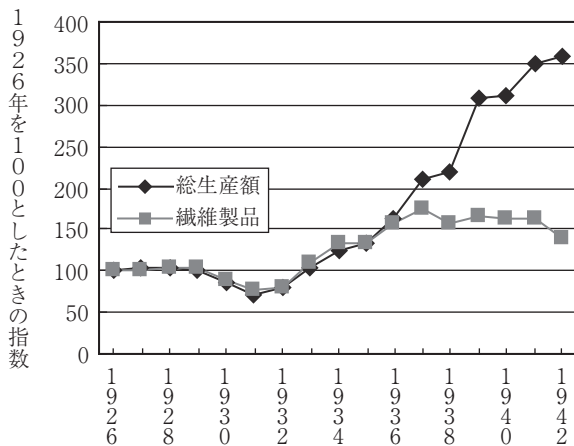


57 昭和恐慌の克服

～高橋財政と景気回復～

〈グラフ1〉 県内工業生産額指数の推移



『静岡県史』資料編22近現代七 358頁より作成

1 世界恐慌からの立ち直り

1929（昭和4）年10月24日のアメリカの株価暴落を契機に始まった世界恐慌は、1930年に日本にも波及する（昭和恐慌）。諸物価は下落し、デフレ不況となった。〈グラフ1〉は、県内の工業生産額の指数である。世界恐慌が波及する1930年から生産額が下がっていることがわかる。

しかし、意外にも1933年には1929年の水準を回復し、昭和恐慌は比較的短期間で克服しているのである（これは全国的にも同様である）。このように世界恐慌の中、日本は他の先進国に先駆けて景気回復を果たすが、これはなぜなの

であろうか。

昭和恐慌が始まった時の浜口雄幸内閣に代わり、犬養毅内閣（1931）となると、1927年の金融恐慌でも手腕を発揮した首相経験者の高橋是清が大蔵大臣となった。高橋は犬養が五・一五事件（1932）で倒れた後の齋藤実内閣・岡田啓介内閣でも蔵相を勤め、二・二六事件（1936）で高橋自身が暗殺されるまで日本経済の舵取りを行った。高橋は、浜口内閣時代に実施して不況の原因となっていた金解禁を即座に停止し、金本位制度から管理通貨制度に転換させた。これにより、比較的自由に通貨を発行できるようになるなど、政府による財政政策の自由度が高まったのである。

2 公共事業による景気回復

〈史料1〉は、高橋是清が行った時局匡救事業とよばれる政策に関するものである。傍線部を読むと、この政策は主に公共事業を行い、景気を回復させようとしたことがわかる。この公共事業の資金は「追加予算」となっているが、この財源は管理通貨制度により発行できるようになった赤字公債（国債）であった。高橋は、それまで浜口内閣で行われてきた産業合理化によるデフレ

政策を180度転換し、赤字公債（国債）を発行してカネの量を増やし、デフレに陥っていた日本をインフレに転換させたのである〈グラフ2〉。この政策は、ケインズの理論を先取りしたものであり（ケインズの主著『雇用・利子および貨幣の一般理論』は1936年出版）、当時の先進的な

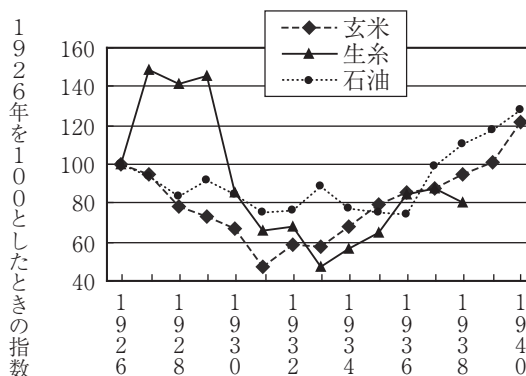
〔史料1〕（昭和七年度時局匡救事業予算に関する知事説明）昭7・9・19
 （静岡県会『昭和六年・昭和十二年 臨時県会速記録』）
 本臨時県会に提案致しました議案は昭和七年度静岡県歳入歳出追加予算案外七件でありまして、其の要旨は、今般政府の樹立いたしました所謂時局匡救策に基き産業土木に関する各般の事業を起興しまして、之に依りて窮乏せる地方民に労働の機会を与へ、其の勤勞に依りて収入の増加を図り、以て自力更生の資を得しむると共に、他面、県下産業の進展に資せしめむとするものであります。
 （後略）

〔静岡県史〕資料編20近現代五 147頁

政策であった。

再び〈グラフ1〉に目を戻そう。1936年頃まで総生産額と同様の推移を示しているのが、^{せんい}繊維製品の生産額である。また、〈史料2〉は、繊維工業試験場が着目し、官民の協力によって主に県西部地区で生産されるようになった、東南アジアなどで使われた「サロン」とよばれる綿織物の輸出増が、不況克服に貢献している様子が書かれている（なお、綿織物の輸出増は全国的な傾向であった）。

〈グラフ2〉 県内の卸売物価指数の推移



『静岡県史』資料編22近現代七 650頁より作成

3 管理通貨制度と貿易

浜口雄幸内閣による金解禁は、^{きゅうへいか}旧平価（日本が金本位制度となった1897年の貨幣法で定められた固定為替相場）で行ったため、実際の価値よりも円高ドル安の為替相場となっていた。しかし高橋是清の金輸出再禁止（金本位制度を離れる）により、事実上管理通貨制度になったことから、無理に円高の水準を保つ必要がなくなった円ドル相場は実際の価値に近づくことになり、急激に円安ドル高が進んだのである。

円安は輸出に有利なため、サロンの輸出も円安が追い風となって急激に伸びたのであった。しかし、こうした円安ドル高への為替誘導による輸出増加は諸外国から警戒され、イギリスやオランダの植民地では輸入制限も行われるようになって、輸出は次第に頭打ちとなった。

ともあれ、このような高橋是清の財政政策（高橋財政とよばれる）により不況は克服されていくが、この政策を続ければ赤字公債が増えてしまう。そのため景気回復が鮮明になった1936（昭和11）年度から、高橋は積極財政から緊縮財政へと政策を転換しようとした。しかし、高橋財政のもとで増えていた軍事費を削減されそうになった陸軍が、二・二六事件（1936）で高橋を暗殺し、再び赤字公債の発行による軍事費や公共事業の拡大が進められ、1937年から始まる日中戦争に突入していくのである。この結果、〈グラフ1〉からもわかるように好景気は維持される。しかし、それはテロや戦争、小作人や労働者の低所得といった負の要因にも支えられた好景気だったのである。

〈参考文献〉

『静岡県史』通史編6 近現代二
『国史大辞典』の「高橋財政」項

〈史料2〉『サロン類に就て』序 昭7・6月
南洋、印度其他印度洋沿岸諸国に対し、サロン其他腰布類の輸出頗る有望なる事は、夙に識者の唱道する所なるが、我遠州に於ては全国に率先して其研究に着手し、官民協力して発展に努めたる結果、数年来俄然として一大活況を呈するに至り、昨年度に於いては其生産高実に九十四万円に上り、全国総生産高の四割余を占め、遠州サロンの名声内外に噴々たるに至りたるは、邦家の為、洵に欣快に堪えざる所なり。

（旧浜松繊維工業試験場所蔵 歴文020748-813）